

あすなろ通信

茅ヶ崎高校校長日より
No.8 平成29年11月9日

知的障がい者へもバリアフリーを

平成29年度神奈川県高等学校英語スピーチコンテスト（第54回神奈川県高等学校英語弁論大会）に、全日制2年賣井坂恵理さんが応募しました。内容は「Barrier frees for people with an intellectual disability」で、その日本語訳を紹介したいと思います。

【3つのバリアフリーを心に置いて生きていきませんか】

バリアフリーという言葉を知っていますか。バリアフリーは高齢者や身体障がい者の方々が生活をする上で感じる障がいを取り除くための施策のことです。

では、バリアフリーという言葉聞き、どのような施策を想像しますか。目の不自由な人々のための点字ブロックですか。高齢者や目の不自由な人々のためのノンステップバスですか。耳の不自由な人や、言葉話すことのできない人々のための手話ですか。これらは高齢者や身体障がい者の方々のために作られていて、人々にもよく知られています。

それでは、知的障がいのある方々へのバリアフリーはどうでしょうか。あなたの周りに、知的障がいの方々はいますか。

私の兄は知的障がい者です。私は知的障がいのある兄を持つ立場から、知的障がいのある人々のためのバリアフリーも必要なのではないかと思いました。今日、私は知的障がい者の方々のための、3つのバリアフリーについてお話します。これらのバリアフリーは目に見えないもので、あなたの心がけだけで実践できます。これらは、あなたにとって簡単にできます。その上、大きな費用もかからないので、たとえあなたに多くのお金がなくても実践できます。

1つ目は、理解することです

何を理解すべきなのか。それは、まず知的障がいの方々の持つ特性についてです。彼らの特性はとてもユニークです。たとえば、私の兄は会話が上手にできないため、跳びはねることで感情を表現します。

ある日、兄と私はファーストフード店へ出かけました。そこに到着した数分後、兄が店内を跳びまわり始めました。兄は喜びの感情を表現していました。周りの人々は、兄を不思議そうに眺め始めました。ある男性たちは兄を指さして、「あいつを見てみるよ。おかしいな」と、笑いました。

兄の持つ特性が周りの人に理解されていないくて、私は悲しく思いました。世界

には様々な個性があります。肌の色、性別、年齢、そしてハンディキャップ。個性を理解することが、すべての人間が平和に生きることのできる社会を作ります。その1つとして、どうか知的障がいのある人々の特性も理解してほしいのです。

2つ目は、偏見を持たないことです

ある一つの偏見が、昨年7月の悲しい事件を生みました。津久井やまゆり園を利用するハンディキャップのある人々が、1人の男によって殺されました。私は人々が、なぜ殺されなければならなかったのかわかりません。

その男は、「障がい者は周りを不幸にする。死んで当然だ」と言いました。その考えに対して、「周りを不幸にする人間はいない。死んでよい人間などいない」と、私は主張したい。

私の兄は、絵を描くことが得意です。兄は展示会を開いたことも、似顔絵実演ショーを開催したこともあります。兄は丁寧に色を塗りながら、楽しそうに絵を描きます。その時、兄はいつも生き生きしています。兄の絵を見た人々は、とても幸せな気持ちになります。

すべての人間は、他の人を幸せにすることができます。すべての人間に、幸せに生きる権利があります。これを忘れないでください。

3つ目は、平等に思うことです

健常者が、障がい者よりも優っている訳ではありません。障がい者が、健常者よりも劣っている訳ではありません。すべての人々は平等です。

私は3年前、兄と同じ知的障がいのある男の子が書いた本を読み、知的障がいについて学びました。本には、「僕は、障がい者だという理由で特別扱いされたくない」と、書いてありました。その特別扱いは、「えこひいき」と「仲間はずれ」の両方を意味していました。これを読んだ後、私は彼らと温かく、対等に接するべきだとわかりました。また、お互いを補い合うことも必要です。

「人はみな平等」と、様々な人間が口にします。でも、それを言うことはできても、実際に思うことができない人々が多いです。お互いを補い合い、対等な関係を心がけてください。

「理解すること」「偏見を持たないこと」「平等に思うこと」この3つのバリアフリーを紹介しました。最初にも言いましたが、これらはあなたの心がけだけで実践できます。一人ひとりの心がけが、知的障がいの方々、そしてすべての人々にとって心地よい社会を作ります。私はそのような社会に生きることを願っています。

そのために、私はこの3つのバリアフリーを心に置いて生きていきます。

これからも、すべての人が、相互に、人格と個性を尊重し、支え合い、生き生きと生活できる社会「共生社会」をみんなで作り上げていきましょう。